

## 武道とは

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

おはようございます。

本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました大野実行委員長、ならびにスタッフの皆様、本当にありがとうございます。

今年初めての大会ということで、基本的なことからお話をさせていただきます。

今日はそもそも武道とは何なのかというお話です。

武道とは元々は武術というただ相手を傷付ける術として存在したものが傷付ける必要な無い時代、平和な時代が来るにつれてその存在意義を発展させ、傷付けることを身に付ける以上、それを制御する精神が必要という考え方から精神性に重きが置かれるようになります。人間として踏み外してはいけない、真っ当な道を歩んで行こうと言うことで『道』の文字が付き、武道となりました。このように武道とは精神性に重きをおいて発展してきた日本の文化です。

では皆さんに質問させていただくのは皆さんはテコンドーを武道として行っていますか？それともスポーツとして行っていますか？

あえて意思表示をしていただこうとは思いませんが、我々は武道団体ですので武道であることに重きを置いております。

では行っていることが武道と言えるかどうかどこで決まるのか、それはその方に精神性について、心のあり方について学ぶ姿勢があるかどうかです。

ここで学ぶ姿勢について考えてみましょう。

学ぶ姿勢があるかどうか、それを分かりやすくするために私が目指している武道家の心を例にしてご説明いたします。

それは簡単に言いますと水のようなことです。

水は相手の器によってどのようにも形を変えることができます。

水は色がありませんのでどんな色にもなることができます。

そして最後に最も重要なことですが、水はどこに行っても必要とされます。

例えば武道に色があり、青色だったとします。

あなたが黄色だったとします。

それが変わった時にどうなるかと言いますと、恐らく緑色あたりになるかと思えます。武道は青色でした。出来上がったものは武道と言えるでしょうか？武道とは違うものが出来て上がってしまいます。

ここで言う自分の色とは『俺はこう思う』『俺の主義はこうだ』『俺はこうがいい』という『自分』です。

そういったものを無くし素心とも言える心のあり方で武道と向き合うことが武道を修練する上で最も必要なことです。

具体的に何を心がけるべきなのかと言いますと、まず習慣として黙想を行うことです。姿勢を正して何も見えないように目を閉じ、心に何も無い状態を作ることです。毎日は上手くいったりいかなかったりですが、イライラや嬉しさなどが心に無い状態を自分で作りだす習慣を身に付けます。

また道場においては余計なものを道場に持ち込まないことです。

この余計なものとは好き、嫌いに代表される偏見です。人間には必ず好き・嫌い、合う・合わないがあります。これはどうしようもありません。

しかし道場に入り道着を来た時からそういったものを忘れ、偏りのない人との関わりをするべきです。道場とは単心で武道に向き合い、好きなテコンドーを皆で楽しむ場所です。道着を着れば国籍、性別、年齢問わず皆がテコンドーが好きな仲間です。

武道の場では個人的な友人関係より、全体の人間関係を大切にさせていただけたらと思っています。

ありがとうございました。

2024年2月25日

第22回愛知県テコンドー選手権大会にて